

教科書にも取り上げられている「のはらうた」は、絵本やカレンダー等の版画作品を通して、児童にも教師にも大変親しまれています。山口市在住の版画家 保手浜孝さんに、「のはらうた」や工藤直子さんとの出会いについて伺いました。

※「のはらうた」との出会い

三十二年前、山口に転居してきた私はたまねぎづくりを手伝っていました。稀に、収穫したたまねぎを広島まで出荷することがあり、その際、美術館と大型書店に立ち寄るのをとても楽しみにしていました。そしてある時、その書店で「のはらうた」と出会ったのです。ひらがなだけで、こんなに生き生きと、のはらのみんなが自分の思いを語っていることに驚きました。ユーモラスで哲学的、本の装丁も素晴らしい、わくわくしながら次々とページをめくったのを覚えています。

その頃、絵画教室を開いていました。子どもたちは、一年間の作品をカレンダーにまとめて楽しんでいました。私も做って「のはらうた」を題材に版画でカレンダーを作



原画撮影

つてみようと思いい、出来たカレンダーを友人に配るととても喜んでくれました。た。（のはらうたカレンダーも、来年で二十九年目です）

※工藤直子さんとの出会い

こんなに素敵な言葉を生み出す工藤さんとはどんな方だろう…どうして一度会ってみたくなくなった私は、当時

探訪シリーズ **この人 この歩み**
「のはらうた」との出会い
 版画家 **保手浜 孝さん**



みると、ご本人自身もとても気さくで素敵な方でした。作品にも人柄にも魅かれて、教科書や絵本のお仕事を一緒にさせていただく傍ら、いろいろなことを教えていただき、遊んでもらって：人生最高の師匠です。

※**山口の良さ**
 私は、兵庫県で図工の教師をしてい

ましたが、制作への思いがあり教師を辞めて山口市に移り住みました。今、豊かな自然の中で、日常的に本物の「のはらみんな」に出会えることに喜びを感じています。「のはらうた」の他にも、鳥をはじめとする動物や自然をモチーフにした版画や油絵を製作しているのですが、ここでしか描けない絵があるなあと感じます。

※教育現場に期待すること

来年少小に入学する孫がいますが、彼女の描く「のはらうた」の線、心から楽しんで絵を描く姿に、はっとさせられる事があります。

今の子どもたちは、本の画面でも思わずスクロールしてしまうほど、パソコン、携帯、ゲームなど、バーチャルな世界に親和性の高い新世代だと思いますが、そんな世代の子どもたちだからこそ新たな表現、発想を楽しみにする一方、自分の手を使って作ったり、自分の頭で考えた事を形にしてみたり、作り出す喜びに出会い「図工っておもしろいな」と感じながら育っていったらいいなと思います。

優しいまなざしで「のはらうた」や子どもたちの作品の魅力を語ってくださる保手浜さんは少年のようにさわやかで、「のはらななま」の世界に引き込まれたような錯覚をもちました。（山口市立井関小学校 清水久美子）

本部だより

平成二十六年度は、昨年度より十四名も多い六十一名の新会員を迎え、計三百七名で小学校長会の取組がスタートした。

本年度は、山本晃久新会長のもと、社会を生き抜く力を身に付けた日本人の育成を目指すために、「学校経営の充実、研究活動の充実、「生きる力」の育成を目指す教育課程の編成・実施・評価・改善、教職員の資質能力の向上、教職員の定数や処遇の改善などの活動を重点として推進することとした。

そして、組織活動を充実させるために、理事会では、先見性のある学校経営を基本テーマに、事例発表や講演、情報交換等を通して、地域と学校の連携を高める校長のリーダーシップについて研究を深めている。全国連合小学校長会研究協議会山口大会開催まであと一年となった。大会実行委員会を中心とし、総務部、運営部、研究部、広報編集部が順調に準備を進めている。大会を開催することが目的ではなく、校長先生方の思いを結集して取り組み、山口県小学校長会のつながり力を強めることが大切であるという会長の考えを共有し、すべての校長先生方のご協力を得ながら、充実した一年にしていきたい。

（山口県小学校長会幹事長 中村達実）